

「死と復活の予告」

2015年07月13日

ルカによる福音書9章21節～27節。イエスは弟子たちを戒め、このことをだれにも話さないように命じて、次のように言われた。「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があるのか。わたしとわたしの言葉を恥じる者は、人の子も、自分と父と聖なる天使たちとの栄光に輝いて来るときに、その者を恥じる。確かに言うておく。ここに一緒にいる人々の中には、神の国を見るまでは決して死なない者がいる。」

主イエスは、弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と主体的な応答を求められた。ペトロが真っ先に「あなたは、メシアです」と答えた。キリスト教信仰の核心である「キリスト告白」がなされた。主イエスは、このことを誰にも話さないように口止めされた。ペトロの「キリスト告白」は方向違いであることを知っていたからであろう。そして「人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている」と、上って行くエルサレムで起こる出来事を語られた。「人の子」という言葉は新約聖書独特の表現で「主イエス」を指している。私は多くの苦しみを受け、エルサレム神殿の権威ある者たちから排斥され、殺されるが、三日後に復活すると予告された。弟子たちには理解できない内容であり、想像しえない言葉であった。続いて、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」と語られた。

「ガリラヤの春」が終わり、十字架にかかるためにエルサレムに上る。その前に、十字架と復活を予告し、主イエスに従う者のあり方について、伝えておきたい最も重要なことを語られたのである。この言葉には、主イエスの厳しい決意が込められている。

ここで ① 自分を捨て、② 自分の十字架を背負って、③ わたしに従いなさい。④ 自分の命を救おうとする者は、それを失うが、主イエスのために命を失う者はそれを得ると、四つのことを語っている。① およそ真実な宗教は自己否定の禁欲を伴う。② が中心であろう。十字架刑はローマへの反逆者に科せられた最も過酷な刑罰である。十字架を背負うとは重荷を負うことであるが、重荷は、自分自身のもものと他者のものがある。主イエスは「自分の十字架を背負って」と自分に負わせられた十字架を背負えと言っている。神は人に必ず重荷を負わせられる。その重荷から逃げ出さず、負い続けることである。その中で、他者のために十字架を背負う光栄に与ることができるかも知れない。③ 信仰は一時的にではなく、死に至るまで、主イエスに従い続けることである。④ 自分の欲望を手に入れた者は、この世の勝者のように見えるかも知れない。しかし、主イエスのために命を失った者が神の命に与る真の勝者である。この言葉を全うできる者はいないだろう。主イエスは十字架で死に、復活し神の命に与った。十字架と復活の主イエスをキリスト(救い主)と信じるのが信仰の核心である。そして、この信仰が主イエスの復活の命を約束する。